

小学校教員養成コース学生向けピアノ教材の開発（2）

—大人数クラス授業での使用を前提として—

石井 哲夫

〔報 告〕

小学校教員養成コース学生向けピアノ教材の開発（２）

—大人数クラス授業での使用を前提として—

石井 哲夫

Development Teaching Materials for Piano Technique
for Students of Elementary School's Teacher(2):
on the Assumption that Use in Mass Class

Tetsuo ISHII

摘要

昨年制作した表題の教材（*1、以下「本教材」と略記）を用いて、実際に小学校教員免許取得希望の学生のための音楽実技の授業（以下「本授業」と略記）を行なったところ、いくつかの問題が浮上した。最も大きなものは授業履修開始以前のピアノ経験有無である。15週の授業期間中に最終目標である「主要3和音を用いた簡単な伴奏付け」まで到達できる学生、できない学生の差が大き過ぎることである。この問題を解決するため、本教材に、初めてピアノに触れる学生向けに視聴覚媒体を付加すること、内容を、コードネームによるピアノ伴奏ができることに向けたものにする、を念頭に置き、改良を加えた。改良を加えた教材は2012年度後期開設の音楽A・音楽Bで使用予定であるが、その前に2012年8月に試用する機会を得た（*3）。

キーワード：音楽教育，教員養成，教材開発，バイエルピアノ教則本，左手の旋律，主要3和音による伴奏

Keywords：Education of Music, training of teachers, develop teaching materials, Beyer vorshule im Klavierspiel, melodie by lefthand, accompaniment by the main trial chordes

0. 序論

ピアノ実技の授業の場合、学生のそれまでの音楽経験（とくに幼少時から習い事としてピアノをやっている、すでに他の音楽関連の授業でピアノに触れているなど）が、本授業の目標達成に大きく影響することは容易に想像できる。そこで最初に本授業開始前に、個々の学生のピアノ経験を調査し、その結果と授業終了時における到達度の関連を調べることにした（資料1）。尚「音楽」の授業は、小学校教諭の免許状取得が卒業要件になっている学校教育コース向けのクラス（Aクラスと略記）とそれ以外のコース向けのクラス（Bクラスと略記）に分けて実施されている。資料1に掲載した初期調査のねら

いであるが、Ⅲ. は楽譜についての知識、最小限ハ長調の楽譜が読めるかどうかと、拍子、1小節の中に入る音符・休符の長さなど、楽譜に関する約束事の知識があるかどうかをみるためのものである。

Ⅳ. はピアノ用の楽譜と鍵盤上の位置を答えさせるもので、大譜表、ヘ音記号、黒鍵を入れることにより、ピアノなど鍵盤楽器の経験の有無がわかると考えた。そして、この調査結果と授業終了時点での、学生の課題到達度を照合することにより、本教材及び指導方法の問題点を明らかにする。

この初期調査の結果と、授業終了時における到達度の関連を表2に示す。

資料1)「音楽」授業開始時に行なった初期調査(抜粋)

Ⅲ. 次の楽譜を見て、下の問いに答えなさい。



ブラームス 交響曲第1番第4楽章より

(1) (ア) ~ (オ) の各音の階名を答えなさい。(カタカナ表記で可)

(ア)

(イ)

(ウ)

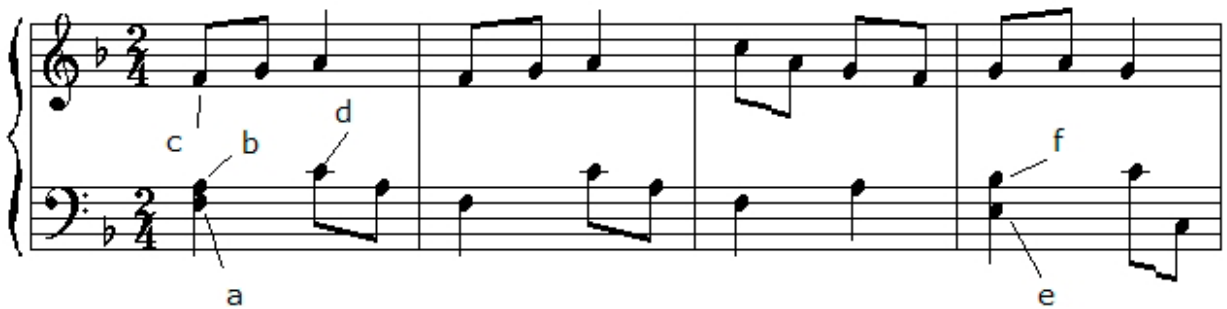
(エ)

(オ)

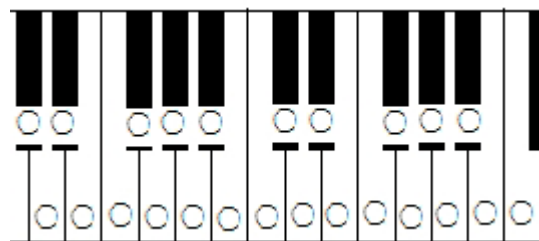
(2) カの空欄に入るものとして適切なものは次の中のどれか。



Ⅳ. 次の楽譜を見て後の問いに答えなさい。



1) 楽譜中のa. ~ g.の音は鍵盤上でどこになるか示しなさい。



２）この曲は何調かを答えなさい。 _____

資料２）初期調査（附録１）の実施結果と授業における到達度

（Ａクラス，２４名）

初期調査 結 果	「ちょうちょ」 step4到達者数	「ぶんぶんぶん」 step3到達者数	「ちゅうりっぷ」 到達者数	「コードネームによる 伴奏」到達者数
△ 6 (25%)	6 (100%)	6 (100%)	2 (33%)	0 (0%)
○ 10 (42%)	10 (100%)	9 (90%)	5 (50%)	2 (20%)
◎ 8 (33%)	8 (100%)	8 (100%)	8 (100%)	8 (100%)

（Ｂクラス，73名）

初期調査 結 果	「ちょうちょ」 step4到達者数	「ぶんぶんぶん」 step3到達者数	「ちゅうりっぷ」 到達者数	「コードネームによる 伴奏」到達者数
△ 18 (25%)	16 (89%)	8 (44%)	0 (0%)	0 (0%)
○ 26 (35%)	26 (36%)	19 (73%)	14 (54%)	6 (23%)
◎ 29 (40%)	28 (97%)	28 (97%)	28 (97%)	20 (69%)

初期調査の結果

- △ ・ ・ ・ ・ ・ ピアノ経験・楽譜に関する知識がほとんどない，と思われる学生
- ・ ・ ・ ・ ・ 楽譜は少々読めるもののピアノ経験はほとんどない，と思われる学生
- ◎ ・ ・ ・ ・ ・ ピアノ経験・楽譜に関する知識共に充分ある，と思われる学生

初期調査の結果欄の％はクラス全体の中での割合

各課題到達者数欄の％は到達者数／初期調査でそのレベルに達していた学生の人数

１． 初期調査の結果と到達度の考察

この授業の単位認定は本教材の「ぶんぶんぶん」(step3)まで到達することを条件としている，Ａクラスではほぼ全員がクリアできているのに対し，Ｂクラスでは全履修者の75％（到達者合計／全履修者）しか到達できていない。

さらに，最終課題の「コードネームによる伴奏」（譜例１のような単旋律のみ書かれた楽譜を見て，即興で伴奏づけを行なう*２）まで到達できた学生は，Ａクラスでは42％，Ｂクラスでは36％だった。

さらに，数値では表せない問題として，集団授業において本教材を用いてピアノ実技指導を行なった場合，

- １）完全な初心者（△印の学生）には運指をはじめとするピアノ演奏のための基本が身につみにくい

- ２）全部の課題を前半の数回の授業でクリアできた学生にとっては，後半の数回の授業は退屈なものとなる

などがある。これらについての対策は，ＡクラスとＢクラスではかなり違ってくる。Ａクラスの場合，履修者が24名と比較的少ないため，１回の授業で学生１人あたり４～５分の個別指導が可能であるが，Ｂクラスの場合は可能な個別指導は学生１人あたり１～２分程度である。

２． 本教材の改良すべき点

これらの問題を教材側から解決するためには，本教材に次のような改良が必要と考えられる。

子犬のマーチ



こぎつね



譜例 1 単旋律のみの楽譜

- 1) 「ちょうちょ (STEP1)」に入る以前に、基本的な運指の練習課題を付加すること
- 2) 「ぶんぶんぶん (STEP3)」までクリアした履修者向けに、応用的な課題を付加すること
- 3) 「コードネームによる伴奏」に必要な基礎的知識と技能を習得する課題を付加すること

- 4) 特に、1) については履修者が授業時間外に自習する場合の助けとなるような視覚的補助教材を付加すること

以上の点を踏まえて教材の改良を行なった。

3. 基本的な運指の練習課題

1) (右手)

(左手)

2)

3)

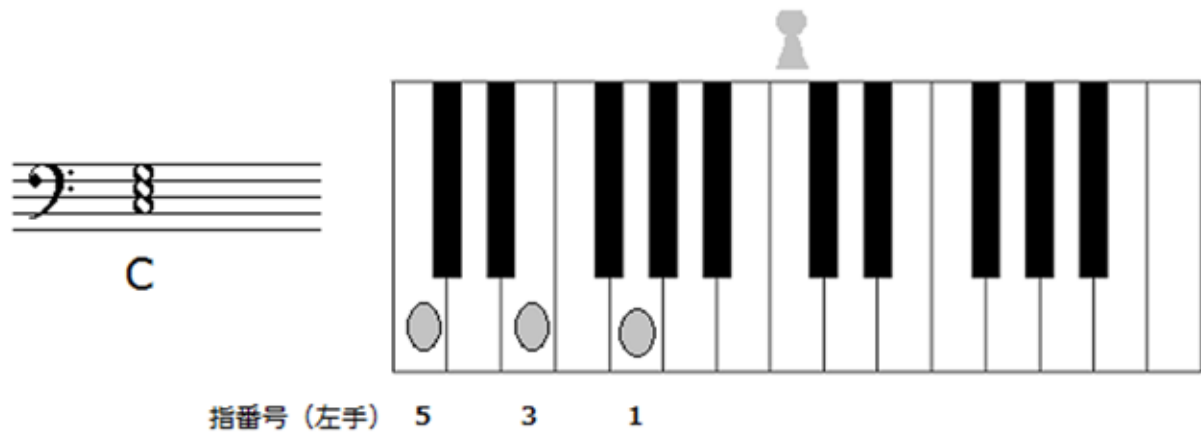
譜例 2 基本的な運指の練習課題

譜例 2 の1), 2) は指が滑らかに動くようになるための練習, 3) は分散和音による伴奏のための予備練習を意図したものである。これらは視聴覚補助教材に収録した。

を左手で弾くことにより, 左手が自由自在に動くための練習とコードネームによる伴奏の基礎的知識を身につけさせることを意図した(譜例 3)。同様に G (G/B), F (F/C) の練習も付加した。これらも視聴覚補助教材に収録した。

4. コードネームによる伴奏のための基礎課題

ここでは C 基本形のみを用いて様々な伴奏のパターン



1

2

3

4

5

譜例 3 コードネームによる伴奏のための基礎課題

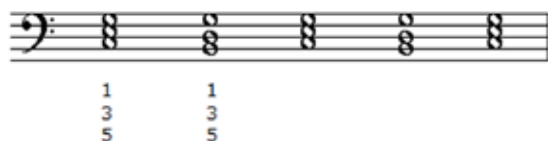
5. コードネームによる伴奏の実際

コードを2つ (C, G/B) を習得したところで、この2つだけで伴奏できる曲を例にとって、コードネームによる伴奏を実際にやってみる課題が譜例4である。こ

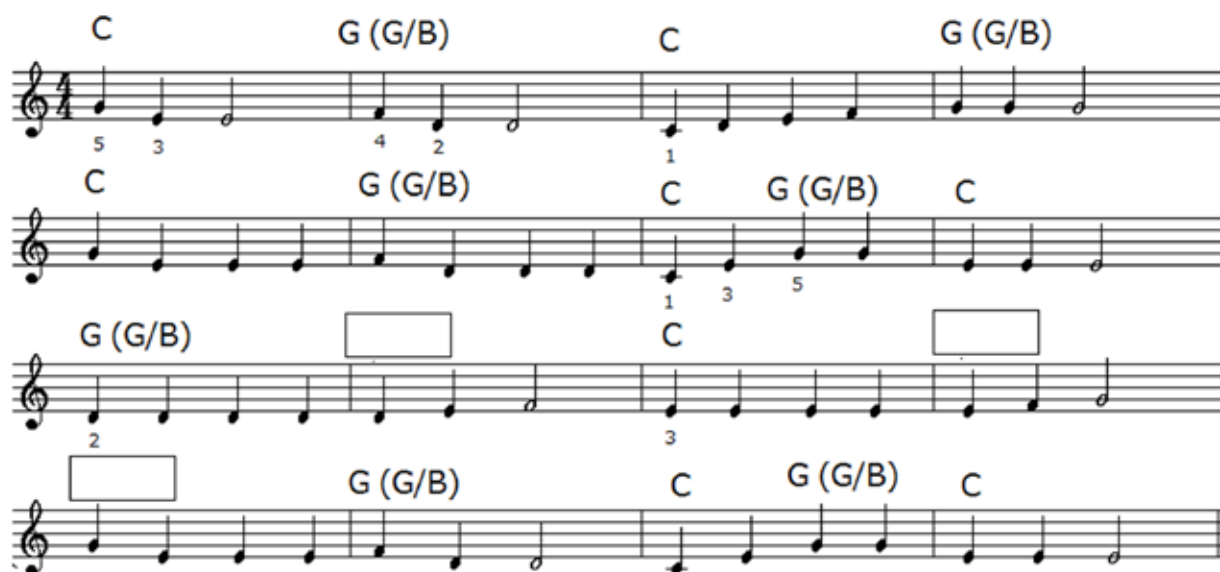
こでは左手のコードチェンジの練習のみ視聴覚補助教材に収録した。

左手) コードチェンジの練習

1) C G (G/B)



ちょうちょのコードネーム譜にチャレンジ



譜例 4 コードネームによる伴奏の実際

6. 本研究の今後の課題

今回、改良した本教材を、平成24年度富山県11年次教員研修の講座「コードネームによるピアノ伴奏」で実際に使ってみた。受講生は6名（すべて小学校教員、内2名はピアノが不得手と思われる）で、講習時間は正味6時間。補助教材はDVD化して配布した。この人数と時間であれば全員が譜例1の課題（単旋律のみの楽譜を見て、自分でコードを考えて伴奏する）まで到達した。

このことから、本研究は今後、教材の改良に加え、大

人数のクラス授業で、いかに効率良く、小学校教員として必要なピアノ演奏力を身に付けさせるか（方法論）へと向かうべきではないか、と確信した。また視聴覚補助教材は現状ではDVD媒体での配布を前提としているが、学生が授業の課題を練習する施設等の環境や受講者がさらに増えたときのことを考えると、インターネット上にこれを置き、パソコン、携帯電話（多機能携帯電話）などから視聴できるようにするなど、教材の提供方法についても再考する必要がある、と思われる。

(注)

- * 1 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要
教育実践研究第 6 号（平成24年 2 月117-129頁）
- * 2 小学校教員が「音楽」の授業を担当するにあたり、
求められる鍵盤楽器演奏能力で最も重要なのが、こ
れであると考えられる
- * 3 平成24年度11年次教員研修（富山県）中の講座
「コードネームによるピアノ伴奏」

[参考楽譜]

全訳バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社）
教職課程のための大学ピアノ教本～バイエルとツェル
ニーによる展開（教育芸術社）

（2012年 8 月31日受付）

（2012年 9 月20日受理）